

## 生産者の声

今年から特別栽培米の作付けを開始した生産者にインタビューをしました。



わたなべ よしみつ  
渡邊 善光さん (大字上北迫)

私のうちでは、今年15ヘクタールのコメ作付けを予定していますが、そのうち3ヘクタールで特別栽培米を耕作します。

父から特別栽培米に取り組むことを伝えられたときは、内心「大変なことになったぞ」と思いました。特別栽培

米は、慣行栽培米(通常のコシヒカリ)と比較して、除草剤の使用回数や化学肥料の使用が制限されて手間もリスクもかかるうえ、耕作途中の検査にも対応しなくてはなりませんから。

当初、特別栽培米を作付けする予定はありませんでしたので、無消毒の種もみは調達できませんでした。はなから特別栽培米を作付けするつもりなら、温湯消毒した種もみを使えば、万が一害虫が出たときなどに、1回多く消毒することができるのです。肥料には鶏ふんを使うのですが、化学肥料よりも作業工程が増えます。

それでも、付加価値の高い特別栽培米を生産、出荷することで、われわれ広野町のコメ農家が足腰の強い生産者になり、ひいては町のイメージアップにも貢献できると考え、思い切って作付けに踏み切りました。町も、ふるさと納税の贈り物に採用するなど、力を入れて支援してくれています。

豊作に期待し、秋には全国の皆さんに特別栽培米がお届けできるよう、心を込めて今年のコメ作りに励みます。

### 全量・全袋検査

福島県が実施している緊急時環境放射線モニタリング調査の実施に加え、広野の恵み安全対策協議会が主体となったコメの全量・全袋検査など放射性物質の綿密な検査を実施し、その検査結果を提供することで、消費者や流通業者の信頼、

そして農産物の安全を確保するために取り組んでいます。

全量・全袋検査に関する詳しい情報は、次の「ふくしまの恵み安全対策協議会」公式ホームページに掲載されています。

<https://fukunegu.org/ok/contents/>



全量・全袋検査の様子

## 風評被害には負けない 特別栽培米で 地域おこし



特別栽培米の作付け

広野町の農業は、東日本大震災に伴う福島第一原子力発電所の事故以来、農産物の出荷制限などの大打撃を受けました。

主力のコメについては、平成24年に試験栽培したコメが放射性物質の検査で検出限界未満となり、平成25年は3年ぶりにコメの生産、出荷を再開し、全量・全袋検査で食の安全を確保しています。しかしながら、風評被害の影響は依然として続いていて、全国的な米価の下落傾向と相まって、コメづくり農家への支援は急務となっています。

### 特別栽培米とは？

特別栽培米とは、農林水産省の「特別栽培農産物に係る表示ガイドライン」に沿って栽培されたコメのことをいいます。具体的には、一般的な栽培方法から化学合成農薬の使用回数および化学肥料の窒素成分量が50パーセント以下で作られたコメのことです。

### 米作り農家応援事業

それに対する有効な打開策としては、付加価値の高いコメづくりが考えられます。広野町は、今年度の作付けにおいて、安全で付加価値の高いコシヒカリ「特別栽培米」の作付けをコメ農家に奨励し、ふるさと応援寄附金(ふるさと納税)の贈り物として買い入れることで、賛同する生産者を支援します。そして、特別栽培米を町の特産品として扱うことで、農業復興の象徴とし、ひいては町のブランドイメージ向上をも狙っています。

広野町は、平成27年度から「米作り農家応援事業」としてふるさと応援寄附金3万円以上の寄附者に、特別栽培米1俵(60キログラム)などをお届けします(受け付けは7月31日まで)。詳しくは、町公式ホームページをご覧ください。  
[http://www.town.hirono.fukushima.jp/sangyo/furusatonozai\\_3000yen\\_nosanbutsu.html](http://www.town.hirono.fukushima.jp/sangyo/furusatonozai_3000yen_nosanbutsu.html)

## 特別栽培米の生産者が県外で講演



県外の消費者に講演をする新妻さん

特別栽培米生産者の1人・新妻良平さんは、今年の1月、岐阜市の生涯学習拠点施設で消費者に対して「生産者の想い～原産30キロ圏内で米づくり～」という演題で講演を行いました。これは、福島県が消費者風評対策として行っている『ふくしまから はじめよう。「ふくしまの今を語る人」』県外派遣事業の一環として開催したものです。岐阜市は平成24年度から広野町に職員を派遣していて、町と交流があります。